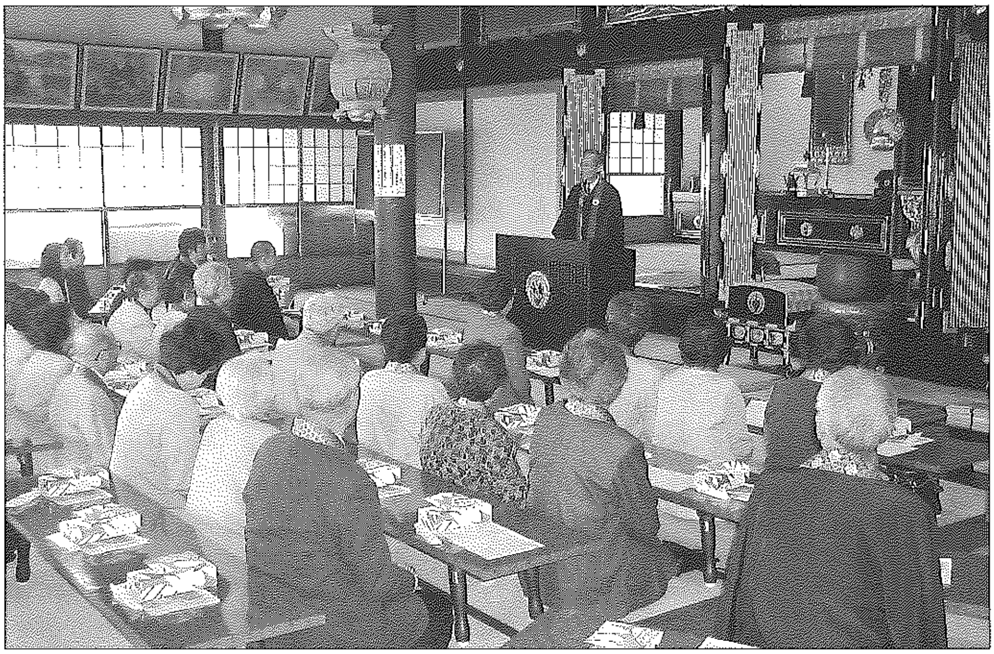
組報

みなみそ

第2号



南組団参の様子です。写真は、明圓寺様参拝の一コマで、ご本堂にてご住職様よりお話を頂いているところです。団参については四～五ページをご覧下さい。

浄土真宗の教章

一、宗名　浄土真宗本願寺派（西本願寺）

一、宗祖　見真大師親鸞聖人（1173-1262）

一、本尊　阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

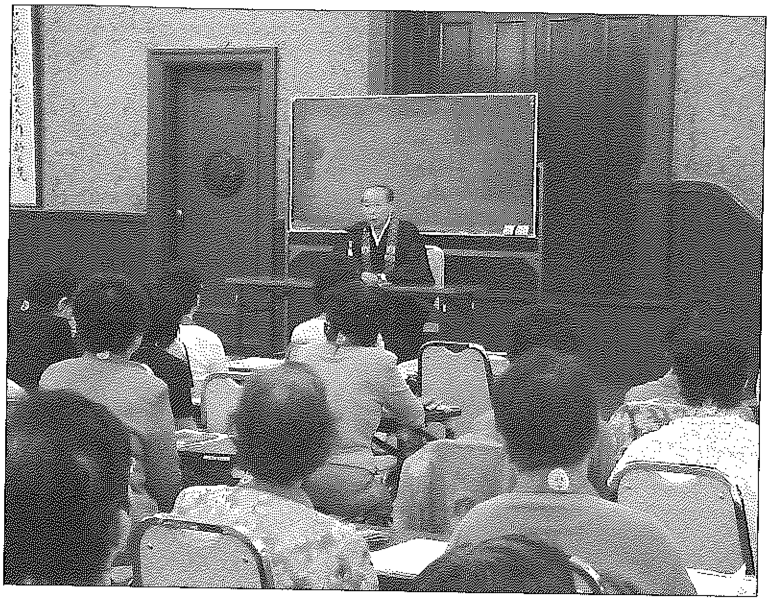
一、経典　浄土三部経　仏説無量寿経（大経）
　仏説観無量寿経（観経）
　仏説阿弥陀経（小経）

一、教義　南無阿弥陀仏のみ教えを信じ、必ず仏にならせていただく身のしあわせを喜び、つねに報恩のおもいから、世のため人のために生きる。

一、宗風　宗門は同信の喜びに結ばれた人々の同朋教団であって、信者はつねに言行をつつしみ、人道世法を守り力を合わせて、ひろく世の中にまことのみ法をひろめるように努める。また、深く因果の道理をわきまえて、現世祈祷や、まじないを行わず、占いなどの迷信にたよらない。

浄土真宗のみ教えについて

「浄土真宗のみ教えについて」という総合的なテーマでありますが、私の浄土真宗を学ぶ姿勢と意味を皆さまと一緒に確かめてみたいと思います。



中西先生と、熱心に聞き入る参加者

親鸞聖人は「さるべき業縁のもよおさば、いかなるふるまいもすべし」と話されました。意業は行為の原因、あるいは動機です。行為の因果を説いて、それを一つの単語で表したのが業です。業には明るいも暗いも関係なく、宿命も関係ありません。私の行為の赴くところに運ばれていくのです。

仏教で「今」という時を強調するのは、その時その時の出来不出来を問うためではありません。今日は同じ形ではありえないからこそ、今日という一日を味わい尽くせと言うのです。人生は長さばかりではなく目覚めが大切です。

・・・

人生は図で描けば点の連続です。しかしこの点は、一つ一つが過去を抱き、未来を孕む「今」です。この「今」の中に思い出を引っ提げて希望を持って生きるのです。これが「今」の深さと本当の意味付けです。正しい宗教は人生の意味を明らかにします。価値ではなく意味です。人生は商品ではありません。釈尊が「無常なるがゆえに精進せよ」と説かれるのは、一つ一つに意味付けをせよと言っているのです。今日の一日を、両手合わせて意味付けのできる人間になりましょう。

・・・

人間の煩悩は無くなるどころか、ますます出てきます。しかし死ぬまで煩悩の無くならない私を捨てられないと、宇宙の根本にはたらく願いを如来の本願というのです。私の悩みのどん底にはたらく願いを、人格的にいえば阿弥陀仏というのです。たずねるべきは本願の心です。願いです。願いをもっておられる方を阿弥陀仏と拝むのです。私を救うことのできる救いの法は

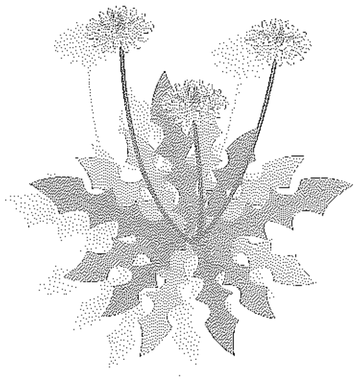
十劫の昔に成就されています。私が受け取るか受け取らないか、それだけです。聞こえたとは受け取れたということです。受け取るとは身体で受け取ることです。煩悩は、身を煩わし心を悩ますことです。そんな煩い悩みの私が、如来様の願いに目を覚まして信心歓喜する。親鸞聖人は「歓は身をよろこばしむるなり、喜はこころによろこばしむるなり」と説明されています。人生の最後の境地は慶びです。

・・・

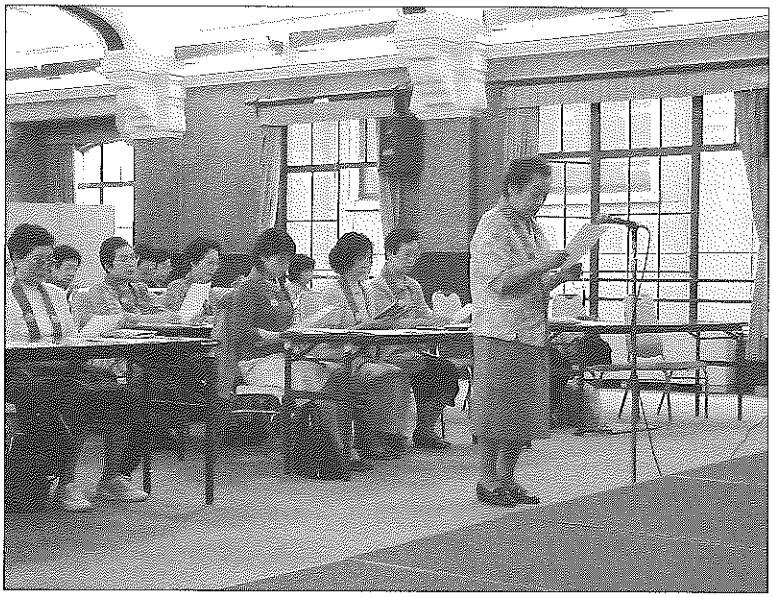
親鸞聖人は「遠く宿縁を慶べ」と説かれます。「宿」とは一切の過ぎ去った時間のことです。順縁ばかりが縁ではなく逆縁も縁です。悲しみをも転じて慶びとなさしめられる世界が、念仏の世界です。苦しみを乗り越えた者にしか味わえない深い慶びもあります。

凡夫の目には一寸先は何も見えません。しかし何が起こるか分からなくとも、両手を合わせて仏様と乗り越えさせていただくのが人生の道なのです。両手を合わせて乗り越えてゆくそのままが、浄土と呼ばれる真実の悟りの世界に向かわしめられる命のあり方です。人生を包みあげてみたら、育ちゆく人生、育ちあいの人生です。育ちあいは御同朋御同行の御縁です。これが浄土真宗です。

二〇〇二年六月十四日
南組仏婦研修会（築地別院）
ご講師　輪番　中西智海 師
参加者六十八名



研修会に先立ち南組仏教婦人会連盟総会が開かれました。真宗宗歌の斉唱で始まり、お勤め、善永寺・阿部松枝南組仏婦連盟副会長による仏婦綱領の読み上げ（左の写真）とつづき、組長挨拶の後、南組仏婦連盟会長である最徳寺・伊藤恵子さまより一年間の活動について報告がありました。

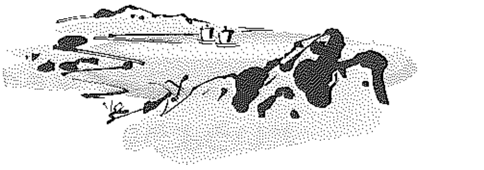


歴史と焼き物の里　佐賀参拝の旅

四月二十二～二十四日、二泊三日の団体参拝旅行に参加した私は、まだ見ぬ佐賀県に胸を膨らませ駅へと急ぎました。総勢五十七名の団体参拝旅行の始まりです。午前十時過ぎ佐賀空港に到着。最初に南組真光寺多田恵彰ご住職のご実家である「明圓寺」さまに参拝させていただきました。続いて昼食。佐賀有明海の味を存分に堪能し、昭和三十一年、横尾雄一翁の遺言によって建物・庭園を寄贈された「本願寺佐賀教務所」を参拝後、期待の「吉野ヶ里遺跡」を見学。復元された弥生時代の建物や、発掘物から当時の生活や文化を知ることが出来ました。女王卑弥呼の時代と言うことは、昔から女性が強かったのでしょうか？　見学後は、佐賀の秘湯「古湯温泉」にて宿泊、初日の疲れを癒しました。

二日目の朝、目を覚ますと外はすごい雨でした。松波さんは「私は晴れ女よ」と言っていました。私も自称「晴れ女」のつもりです。それを信じてバスは出発しました。思っていた通り、だんだんと雲が切れ、晴れ間がのぞいてきました。雨が降ったため中止の予定であった「呼子の朝市」の見学が出来ることになりました。「呼子の朝市」は美味しそうな海産物がいっぱい並んでいて、さぞ皆さんお土産を求められたことでしょう。続く「佐賀県立名護屋城博物館」では、日本列島と朝鮮半島との交流の歴史を学んだ後、いよいよお楽しみの昼食の時間です。いただいた烏賊の活き作りの美味しかったこと。まだ動いている烏賊のお刺身と、足も天ぷらでいただきました。昼食後は海から一転山に向かい、焼き物の里「伊万里」へ到着。窯元巡りは、三方を山に囲まれた秘境ムードの中に店々の立派な作品を見て歩き、多くの行程を経て一つの作品が出来上がる苦労を知り、粗相かしい私など大いに反省いたしました。この日は美人の湯で有名な「嬉野温泉」に入り、南組親睦の宴会が組長様始め幹事の方のご挨拶で始まり、皆様の素晴らしいノドを聞かせて頂きながら美味しい玄海灘のお料理をいただき最高の幸せを感じました。

吉野ヶ里遺跡



最終日は、まず国宝不動明王の[illegible]がある「永寿寺」に寄りました。その後、「九州陶芸文化館」、「源右衛門窯」を廻り、「有田焼卸団地」にてお買い物の時間となりました。私は（多分皆さんも）ウキウキしてバスを降りました。何か良い掘り出し物はないかとそれぞれのお店を覗いては、あまりにも多くの品々に迷いながら探していることがとても楽しいひと時となりました。最後に早稲田大学の創始者である「大隈重信旧宅・記念館」では功績と展示品を見学いたしました。そして参加された皆様とも旅が無事に終わったことを喜びながら帰路につきました。

同じ気持ち（念仏の世界）に生きる皆様との旅は、私にとって最高の有意義な楽しい想い出となりました。来年も是非参加できますよう・・・皆様も、もう一人の自分探しの旅に出かけてみませんか

最徳寺門徒　伊藤恵子

本願寺御影堂平成大修復事業記念

「西本願寺展」が上野で開催されます

会　　場：東京国立博物館・平成館（東京都台東区上野公園）
日　　程：２００３（平成１５）年３月２５日（火）から５月５日（月・祝）まで
休 館 日：毎週月曜日（４月２８日、５月５日は開館）
開館時間：午前９時３０分～午後５時　毎週金曜日は午後８時まで（入館は閉館の３０分前まで）
主　　催：浄土真宗本願寺派、東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション
後　　援：文化庁
観 覧 料：一般 1300円、高校・大学生 900円、小・中学生 400円
※障害者とその介護者１名は無料。
お問合せ：＜ハローダイヤル＞０３－５７７７－８６００

本願寺特別割引について
お寺を通してチケットを申し込まれますと、特別割引にて観覧いただけます。詳しくは各ご寺院様にお問い合わせ下さい。

西本願寺は、浄土真宗本願寺派の本山として多くの信仰を集め、壮麗な近世寺院建築、ならびに諸堂を飾る障壁画をはじめ多数の貴重な文化財を所蔵しています。平成六年には世界文化遺産に登録され、現在、宗祖親鸞聖人像が安置される御影堂（重要文化財）の大修復事業を進めています。「西本願寺展」は、この御影堂平成大修復事業を記念して開催するもので、西本願寺の所蔵品とゆかりの文化財が一堂に会することは、東京でははじめてです。今回の展示会では、「本願寺の蔵が空になるようだ」と形容するほど数多くの美術品が出展されます。

このたびの「西本願寺展」では、本願寺の至宝「鏡御影（かがみのごえい）」が出陳されます。まことにありがたいご縁です。「鏡御影」は、親鸞聖人のありし日の表情が淡墨の細線で生き生きと描かれており、まるで鏡に写ったお姿のようだということでこの名があります。聖人83歳前後のお姿と推測されます。鎌倉時代を代表する肖像画として国宝に指定され、日本を代表する美術品であると同時に私たちの信仰上の至宝でもあります。（本願寺ホームページより抜粋転載）

＊「鏡御影」は３月２５日から４月６日まで展示予定

「西本願寺展」の情報はこちらのホームページでもご覧頂けます。
■ご本山・京都西本願寺　http://www.hongwanji.or.jp/
■東京国立博物館　http://www.tnm.go.jp/
■ＮＨＫプロモーション　http://www.nhk-p.co.jp/

「私はここまで来るのに電車バスを乗り継いできました。これは自力ですか他力ですか」というような質問を受けることがあります。
親鸞聖人は「往生の根機に他力あり自力あり」と申されました。簡単に申しますと、自力とか他力とかが問題になるのはたった一つ、私たちが救いというものを考えた時に、あるいは悟りということを考えた時に、自力で悟りを開く道と他力で仏になる道と二つあるということです。自力というのはたんなる自己の力ではない。自己の力（全能力）をあげてそれをよりどころにして仏の悟りを開く道です。皆さんが電車バスでこちらにお出で頂いたというのは、自力でも何でもないんです。

●

では他力とはなにか。多くの教えの中から選び取られた南無阿弥陀仏の教えの力に導かれて真実の人生を生きる。仏になる。これが他力という世界です。それは、阿弥陀仏の根本の願いでもあるから、他力＝本願力とご領解されたらよろしいんでしょうね。自力というのは仏の願いやはたらきではなく、自らの能力に属するものですから、自力を本願というのは言葉からいっても成立しないといえます。

ご講師の山崎龍明先生

もう一度繰り返しますが、「他力本願では生きていけない、自力本願でなければ」という問いに対して、答えとか結論ではなく、まず私たちが生きるという事はどういう事かということを考えていきたいと思います。

●

現代は自力全盛の時代であるといえます。私はいつもこういう表現をさせていただくのです。「自分がその気になれば出来ないことは何一つない」。自力の世界はこのような方向を持っています。しかしこのことは大変に危ない面をもっています。自分の思い通りにいかないと言う大きな壁にぶつかると、挫折する以外ほかに道がないのです。自力とは自分の能力と資質を握りしめる、どこまでも自我を信ずる世界であるといえます。

●

そのような自力の歩みに対して、他力（本願）の世界というのは、どんなに懸命に誠実に事に当たっても自分の思いどうりにいかないこともあるということに気づく、広く開かれた世界です。そこには行きづまりはありません。

2002年10月12日／南組仏壮講座（築地別院）／ご講師 山崎龍明 師／参加102名

南組仏教壮年講座

「他力本願」

今日は他力本願とは何かということを、皆さんと考えていきたいと思います。最初にお断りしておきたいのは、今日の仏壮の講座を受けたからといって他力本願が非常によくわかったという方は一人もいないだろうということです。それぐらい難しい問題です。特にこの他力というのは、言葉の説明は解っても、自分の生き方の中できちっとうなずけるのかというと、きわめて難しい問題です。

●

親鸞さんの教えが「仏さまの教えを聞いて立派な人間になりましょう」という教えなら誰も反対される方はいないと思うんです。しかし親鸞さんの教えは少しそれとは異なりますので、そのような意味ではなかなか簡単にはまいりません。親鸞さんも最終的には九十年かけて明らかにされたんですから。私も九十年かけなければわからないのかなという思いもあります。

●

今、他力とか他力本願という言葉はほとんど誤用されています。辞書を引いてみますと、1：阿弥陀仏の力によって悟りを開くこと。　2：他人の力をあてにして目的を遂げること、と必ず書いてあります。辞書によっては、1と2が逆に書いてある物もあります。
かつて「他力本願では国を守れない」と発言した政治家がおりました。また石原慎太郎という人は、好んで他力本願という言葉を使います。他力本願ではだめだということを対談などで盛んに言います。

●

実は、こうしたことは昨日今日に始まったことではなく、親鸞聖人の時代から誤解され続けてきたということ、それは別の言葉で言いますと、なかなか人間には理解しがたい教えであるということをまず確認したいのです。大事なことは、親鸞さんが他力本願とはどのような意味で使われたのかということを、素直に、謙虚に耳を傾けることから出発すべきではないかと私は感じます。

●

「他力本願では生きていけない、やっぱり自力本願でなければ」という言葉がありますが、まず決定的な誤りは「自力本願」という言葉はないということです。本願（アミダ如来の願い）でしたらこれは自力であるはずがないのです。

南組に所属する浄土真宗本願寺派（お西）のお寺です

西光寺（さいこうじ）	140-0014	品川区大井4-22-16	3777-6070
最徳寺（さいとくじ）	143-0016	大田区大森北3-18-25	3761-6811
徳浄寺（とくじょうじ）	143-0012	大田区大森東1-16-22	3761-4127
厳正寺（ごんしょうじ）	143-0012	大田区大森東3-7-27	3761-4945
久宝寺（きゅうほうじ）	144-0044	大田区本羽田3-17-1	3742-0886
海岸寺（かいがんじ）	144-0044	大田区本羽田3-17-6	3742-0921
福泉寺（ふくせんじ）	144-0047	大田区萩中3-27-10	3742-2048
光教寺（こうきょうじ）	143-0024	大田区中央4-35-3	3771-9408
専浄寺（せんじょうじ）	158-0082	世田谷区等々力6-7-10	3701-4753
報身寺（ほうしんじ）	144-0047	大田区萩中1-11-16	3738-0870
正覚寺（しょうがくじ）	144-0047	大田区萩中1-13-13	3731-9212
延徳寺（えんとくじ）	144-0047	大田区萩中1-12-17	3732-1472
福称寺（ふくしょうじ）	144-0047	大田区萩中1-12-20	3738-1720
妙覚寺（みょうかくじ）	144-0047	大田区萩中1-12-29	3738-3091
善永寺（ぜんえいじ）	144-0047	大田区萩中1-11-24	3739-5641
真光寺（しんこうじ）	144-0047	大田区萩中1-13-6	3731-5644
浄興寺（じょうこうじ）	146-0094	大田区東矢口2-10-9	3759-8673
唯称寺（ゆいしょうじ）	142-0062	品川区小山4-9-15	3782-2486
宗導寺（しゅうどうじ）	152-0002	目黒区目黒本町6-19-3	3712-6811
西教寺（さいきょうじ）	142-0042	品川区豊町1-8-12	3781-6154
善照寺（ぜんしょうじ）	143-0025	大田区南馬込4-9-11	3771-8700
永正教会（えいしょうきょうかい）	152-0004	目黒区鷹番2-17-5	3714-0767

仏婦役員会の様子（善永寺にて）

組報みなみそ　第2号（2003年3月発行）

編集・発行　浄土真宗本願寺派東京教区南組
組長 高輪 真澄
大田区萩中1-11-24　善永寺内

印刷所　有限会社　マコト印刷

記事以外の南組のうごき

▼平成十四年
- 四月 十三日 組会・総代研修会
- 八月二十七日 組会
- 十一月二十七日 僧侶研修会
- 十二月 十六日 仏婦役員会

▼平成十五年
- 一月 三十日 組会・新年会